

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

がん診療連携拠点病院等の運営の担い手からみたがん対策活動維持・推進に関わる内容と
評価指標への還元に関する検討

研究分担者 高山 智子 国立がん研究センターがん対策研究所／静岡社会健康医学大学院大学・教授

研究要旨

目的：本報告では、拠点病院等の聞き取り・ヒアリング調査をもとに、「がん診療連携拠点病院等の整備について（以下、整備指針とする）」では、ほとんど触れられていないが、拠点病院の運営を担う関係者らが、拠点病院が目指す方向性や整備指針に書かれた内容を実施するために必要だと考えている視点を整理することを目的とした。

方法：令和4年度から令和5年4月までに訪問した7道県の拠点病院等への訪問時に作成されたヒアリング記録をもとに、現場の医療関係者等の当事者が重要と考えている点を抽出し、整理を行った。

結果および考察：拠点病院の広範な活動領域に対する評価視点は、地域性やその病院での状況、担当者の専門性により異なる意見があげられていた。拠点病院の運営を維持・推進するために重要だと考えている内容として、担い手のモチベーションの維持があげられた。これらの観点は、現場から見えている課題の克服や改善に結びつく可能性が高いとも考えられ、共通の評価指標とうまく組み合わせる形で、拠点病院や地域の課題克服、さらには、担当者らのモチベーションの維持向上に活かしていくことが可能なのではないかと考えられた。

結論：拠点病院等への聞き取り・ヒアリング調査は、途中段階であるため、さらに現場の声を蓄積していくとともに、これらの声を全体の客観的な評価指標の枠組みにどう活かしていくか、両立できる方法を探り、さらに検討していく必要がある。

A. 研究目的

本研究班では、がん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院等とする）の活動に特化して、その機能・役割に関する活動の進捗等を確認できる客観的な評価指標を開発・選定し、評価体制の構築を目指している。その際に策定する評価指標について、特に拠点病院等が目指す姿を意識でき改善活動に資する指標であることを念頭において検討を行うことは、測定や報告に要する拠点病院等の負担を考慮することとともに、今後、持続可能な評価を行っていくためには重要である。

本報告では、本研究班の1年目の活動として実施した、拠点病院等の聞き取り・ヒアリング調査をもとに、「がん診療連携拠点病院等の整備について（以下、整備指針とする）」では、ほとんど触れられていないが、拠点病院の運営を担う関係者らが、拠点病院が目指す方向性や整備指針に書かれた内容を実施するために必要だと考えている視点を整理することを目的とした。

B. 研究方法

令和4年度から令和5年4月までに訪問した7道県

の拠点病院等への訪問時に作成されたヒアリング記録をもとに、拠点病院や拠点病院協議会等の協議や話し合いの場等を含めた活動を推進するために、現場の医療関係者等の当事者が重要と考えている点を抽出し、整理を行った。

なお、本報告時点において、拠点病院等への聞き取り・ヒアリング調査については、継続中ということもあり、現段階で重要な観点として見いだされているいくつかのポイントについてあげることにする。

（倫理面への配慮）

本研究で扱うデータについては、拠点病院の活動に関して記録されたものであり、倫理的な配慮は特に必要でないと考えられる。

C. 研究結果

拠点病院の広範な活動領域に対して、担当者により、その領域に特化した評価視点は、地域性やその病院での状況、さらに担当者の専門性により異なる意見があげられた印象であった。整備指針では触れられていないが、拠点病院の運営を担う関係者らが、運営を維持・推進するために重要だと考えている内

容として、担い手のモチベーションの維持があげられた。またこれにつながる内容として、個々の対応の数（数値化できるもの）だけでなく、質的な側面や労力についても評価をしてほしいと望む声が上げられていた。また、協議の場の重要性として、拠点病院や関係者同士をつなぐ場として重要であるという意見が散見されたほか、このような場を積極的に作ろうとしている関係者らの工夫もあげられた。一方で、関係者内では議論は盛り上がるものの、さらに他の病院等の関係者との意識のギャップや周知に苦しむ声も上げられていた。

D. 考察

拠点病院の広範な活動領域に対する評価視点は、地域性やその病院での状況、担当者の専門性により異なる意見があげられていた。これらの観点は、現場から見えている課題の克服や改善に結びつく可能性が高いとも考えられ、共通の評価指標とうまく組み合わせる形で、拠点病院や地域の課題克服、さらには、担当者らのモチベーションの維持向上に活かしていくことが可能なのではないかと考えられた。とくに、各協議の場をもつことや協議していくことで、共通の評価指標やベンチマークだけでは気づけない課題に迅速に気づける場としても重要であると考えられた。

E. 結論

拠点病院等への聞き取り・ヒアリング調査は、途中段階であるため、さらに現場の声を蓄積していくとともに、これらの声を全体の客観的な評価指標の枠組みにどう活かしていけるか、両立できる方法を探り、さらに検討していく必要がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし